

2023年9月 千葉公園「自然観察会のお知らせ」

日時：2023年9月9日（土）10時00分～12時00分（120分）

会場：千葉公園 〒260-0045 千葉市中央区弁天 3-1 電話：043-251-5103

集合：蓮華亭

内容：植物・昆虫・野鳥の観察会・環境教育

①イヌシデ（かばのき科）

雑木林を代表する樹木はコナラやクヌギ、そしてイヌシデ ②

②カヤとイヌガヤ（いちい科）

カヤの実を食べられるの？ イヌガヤとの違いはなあに？

③ショウジョウソウ（とうだいぐさ科）

不思議な形で赤い色のついた葉っぱがとても魅力的な植物

④エノコログサ（いね科）ネコジャラシだよ

ネコジャラシは本当にネコがじゃれるのかな？

⑤樹木探し「今月から特徴のある木々を観察します」

千葉公園内で見られる不思議なイヌビワの実を探してみましょ！

⑥虫の音クイズ「カネタタキとエンマコオロギ」（こおろぎ科）

夜になると虫が鳴きだします。どんな声で鳴いていか文字にしてみよう。

持ち物：自然観察ができる服装と靴・タオル・飲み物・おやつ・図鑑（植物・昆虫・野鳥など）

カメラ・双眼鏡・敷物・帽子・雨具・筆記具・虫眼鏡・熱中対策と防虫対策を！

お話し：亀井 尊（日本自然保護協会「自然観察指導員」・ちばサイ

安全対策：1. ゆっくり千葉公園内を歩いて、自然に親しみます。

2. マスク着用と水分補給を忘れないこと！

3. 植物採集、昆虫採集はできません。

4. 植物のトゲや毒をもつ昆虫には注意しましょう。

時間配分 9:45 受付

10:00～10:10 蓮華亭にて挨拶・資料配布・今月の観察内容 【マテバシイのドングリ】

10:15～11:45 コース ①実がなる樹木の観察 ②エノコログサの草遊び

③イヌビワの木を探そう ④秋に鳴く虫

11:50～12:00 今日の観察会を振り返って。 来月の予定 10月14日（土）10:00～12:00

《観察のポイント》

- 4月の観察会では芽吹いたばかりの葉を観察しました。葉脈がはっきりして光沢がみられました。葉のそばで垂れ下がる雌花と去年の枝には茶色の雄花が見られました。今月は実を観察します。
- カヤの葉を触ってみると、鋭いトゲがあるから痛いと思います。イヌガヤの葉はどうでしょう？カヤの実を取って匂いを嗅いでみましょう。種子はアーモンドの形をしていて食べられます。
- 花壇の中で赤い葉が目立ちます。クリスマスのころに出回るポインセチアのような花です。近くには葉の縁が白い「ハツユキソウ」の花も。これらは同じとうだいぐさ科の植物なのです。
- エノコログサで毛虫遊びをしましょう。花穂を上下逆にして茎の部分を縛って曲げます。ゆっくり花穂を手の中で揉むと徐々に動いて出てきますよ。またエノコログサを食べてみましょう。
- 千葉公園の中を歩いて不思議な植物や昆虫を探してみましょう。今月は「おっぴいの木」と呼ばれているイチジクの実を小さくしたくわ科の植物を探します。どこにあるか出会いが楽しみだ！
- 秋になるといろいろな虫の鳴き声が聞こえてきます。街灯近くの樹ではアオマツムシが「リーリー」と騒がしく鳴き、草むらではコオロギの仲間が穏やかに鳴いています。

主催：NPO 法人 ちばサイエンスの会 連絡先 080(3503)6059（亀井）

9月になりましたがまだまだ暑い日が続き、外へ出ることがつい躊躇されてしまいます。

8月の千葉市の最高気温と最低気温を調べてみました。その結果 35℃を超える猛暑日は2回、夜間の気温が 25℃を超える熱帯夜が全日続きました。8月5日（最高気温 27.5 度、最低気温 25.0℃）を除いては連日 33~35℃で推移していきました。誰しもが初めて経験する異常事態となり、不要不急の外出は避けるような生活が続いたことは、これまで豊かな生活を享受してきた結果であり、これからは壊れてしまった地球環境をどのように修繕するかが私たちの課題となります。そのようなしなければ子孫にこれまでの豊かで、美しい自然を残してあげられないのです。

この豊かで、美しい地球は「先祖からの贈り物ではなく、子孫からの預かりもの」という考えに基づいて、我々の生きている時代だけが繁栄すればよいと経済を最優先に考え、地球の豊かな資源を掘りつくし、自然を破壊しつくしてしまったわけです。2019 年以降から温暖化の影響が顕著となり、森林破壊はコロナなどのウイルスを発生させ人類存亡の危機的状況に追い込みました。さらに戦争を仕掛ける国も出てきている。このような状況下にあっても開発業者は身近にも存在し、権力者と結びついて着々と魔の手を伸ばしていきます。私たちは身近な自然に親しみ、自然のあるべき姿を観察し、その自然を大切にしようとする自然観察会を実施しています。千葉公園はまもなくヒガンバナが咲きだし、ドングリも拾うことが出来ます。夜にはコオロギが鳴いています。いつもと変わらない自然を愛でたいのです。

《 9月の自然観察》

1. イヌシデ（かばのき科） 左写真は 2023.4.5 撮影 中央と右は 2023.8.31

雑木林や公園で見られる落葉広葉樹のイヌシデは、春に葉がひらくよりも早く花穂（たくさんの花が稲の穂のように集まったもの）が伸びて垂れます。写真は4月5日に撮影したもので、左側に雄花の薄茶色の花穂が今年の枝から垂れ下がっています。また、雌花は今年出た新葉の間から垂れ下がっているのが見えます。シデの名は垂れた果穂がしめ縄の四手飾りを思わせることからつけました。晩秋には実が熟して茶色に乾くと風に吹かれて1つずつ回転しながら飛んでいきます。



【雄花は昨年枝に雌花は葉の元に】【イヌシデの5つに分かれた実】

【縦に白い模様がある幹】

2. カヤとイヌガヤ（いちい科）雌雄異株 葉の先端が尖るのが特徴

縄文・弥生時代の遺跡から保存されたカヤの実が出土しています。古い時代には朝廷に献上された記録もあり、栄養分の高い種子でした。独特のヤニ臭さもありますが灰汁抜きして天日にさらしたものを炒めれば、ピスタチオやアーモンドよりも香りの高いナッツになり、戦後は食糧難を支える果実となりました。樹木の周辺で木の実を探しましょう。イヌガヤは手に触れても痛くないし、カヤの葉よりも長く、柔らかい。



【カヤの果肉と種子】

3. ショウジョウソウ（とうだいぐさ科）

とうだいぐさ科の花はどれも複雑な構造をしています。茎や葉を傷つけると乳液がでます。



【ショウジョウソウの花を拡大していくとアリが吸蜜していました。ハツユキソウも同じ仲間】

4. エノコログサ (いね科)

「エノコロ」ってどんな意味なの？

犬っころ草 (いぬっころくさ) が転じてエノコログサになったようです。それではネコジャラシというのは花穂をネコの視線で振るとネコがじゃれつくことから。



穀物のアワ (粟) の原種とされ、オオエノコロはまさに【放置された土地に入り込むオオエノコロ】交雑した植物として、近年空き地や街なかなどに勢力を 4種類のエノコログサ【左から①②③④】を拡大しています。エノコログサの写真は左から①アキノエノコログサ②エノコログサ③オオエノコロ④キンエノコロ。エノコログサとオオエノコロを採集して観察してみましょう。

《エノコログサで遊ぶ》 ネコジャラシの実験 《エノコログサ遊びと料理》



【我が家のネコちゃんじゃれネコパンチ】【手の中から毛虫・ポップコーンにして醤油味で食す】

5. ウォンテッド「イヌビワ」！ 写真にある植物を探した人にはご褒美がでますよ！

千葉公園のどこかに、いまおもしろい実をつけた木があります。実の大きさは1cmぐらいで、木の背丈は1m程度です。以前は5mの大きさでしたが何故か切られてしまいました。その切られた株から元気よく木が生長して、実を着けるまでになりました。近年木々が伐採される中でとても嬉しいことです。

その特徴は、野山に生えるイチジクのような実をつけています。イチジクの実は美味しいですね。くわ科の雌雄異株の植物です。この実はイチジクを小さくしたようで、房総丘陵ではサルの大好物なのです。子どもたちは、この実を食べながら、まるで「おっばい」みたいな木と呼んで親しんでいます。



雄花にはイヌビワコバチが住んでいて、育児部屋を提供してもらい、雌花の内部に花粉を運び受粉します。互いに共生関係にあります。 【イヌビワの実はどんな味】

6. 虫の音「カネタタキ、エンマコウロギ、ツヅレサセコオロギ」(こおろぎ科)

《虫の声「文部省唱歌」 明治43年7月は、西暦1910年です。今から何年前にできたの？

- | | |
|---------------------|-----------------------|
| 1. あれ 「 ① 」 が 鳴いている | 2. キリ キリ キリ キリ 「 ③ 」 |
| チンチロ チンチロ チンチロリン | ガチャ ガチャ ガチャ ガチャ 「 ④ 」 |
| あれ 「 ② 」 も 鳴きだした | あとから 「 ⑤ 」 おいついて |
| リンリン リンリン リーンリン | チョンチョン チョンチョン スイッチョン |
| 秋の 夜ながを 鳴きとおす | 秋の 夜ながを 鳴きとおす |
| ああ おもしろい 虫の声 | ああ おもしろい 虫の声 |

問題1. 下の語群から「①～⑤」の中に入る虫の名前をいれてみましょう

語群：スズムシ・マツムシ・クツワムシ・ウマオイ・キリギリス (コオロギ)

涼しくなって窓を開けて寝るようになると、ツヅレサセコウロギやエンマコウロギ、カネタタキなどが鳴いていることに気づきます。ツヅレサセコウロギの語源は、「肩させ、裾させ、綴れさせ」と聞きなして、人々は着物のほころびを縫い直して、冬支度をしたということです。

*書籍の紹介：「バッタ・コオロギ・キリギリス 鳴き声図鑑」 村井貴史著 北海道大学出版社 千葉市中央図書館に所蔵されています。秋の夜長、CD2枚を聞きながら過ごすのも良いものです。

《 9 月 》 千葉公園の自然風景（花・草・鳥・昆虫など）



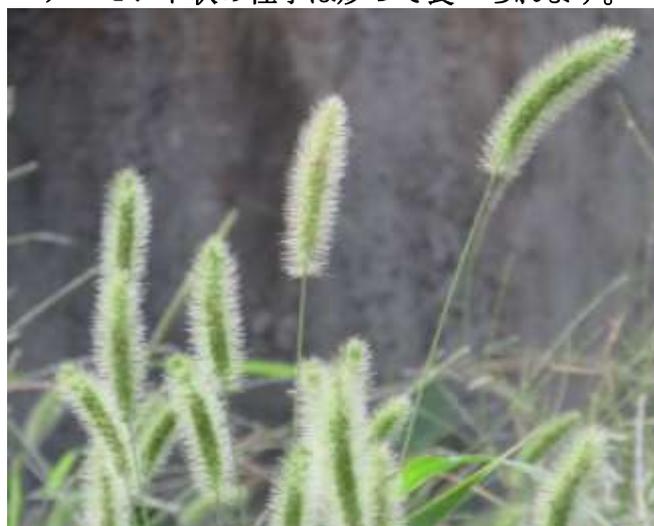
① 荒木山に上る斜面にはイヌシデが植栽されていてこの時期は複数の実が垂れ下がっています。



② カヤノキの葉の先端は尖っていて痛いですが。アーモンド状の種子は炒って食べられます。



③ ポインセチアのような赤い葉が印象的です。とうだいぐさ科のショウジョウソウです。



④ エノコログサはネコジャラシとも言いますね。花穂で毛虫遊びをしてみましょう！



⑤ イチジクに似た小さな実がイヌビワです。ビワにはちっとも似ていませんね。



⑥ 虫の音を聞くことができる図鑑「CD が 2 本と解説書付きです。右はカネタタキの写真